

選手注意事項

1 競技について

- (1) 本競技会は、2024年度日本陸上競技連盟規則および本大会申し合わせ事項により運営する。
- (2) 招集場所は現地とする。トラック種目はスタート付近にて競技開始20分前に1組から順次行い、組数により時差を設ける。フィールド種目について、円盤投は40分前、やり投は1時間前、棒高跳は90分前とする。係員により点呼があるので、競技者本人がナンバーカードの確認を受けること。他の種目に出場している場合は代理人でもよい。
- (3) 申し込み後の変更は、理由の如何を問わず認めない。
- (4) アスリートビブスはそのままの形でユニフォームの胸部と背部につけること。ただし、跳躍種目に出場する競技者は、胸部または背部のいずれか一方でもよい。トラック競技に出場する選手は、主催者が用意する腰ナンバー標識を右腰後方に付けること。
- (5) スパイクシューズのピンの長さは全天候舗装につき9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。ピンの数は11本以内とする。
- (6) 跳躍競技のバーの上げ方については下記の通りとする。(ただし、状況により変更することがある)

	練習	
棒高跳	1m70 2m50 3m00 3m50 4m00	1m80 2m00 2m10 2m20 2m30 2m40 2m50 以後10cm刻み

- (7) フィールド競技は、主催者が用意したマーカーを置くことができる。助走路を使用する競技者は、助走路の外側に2カ所置くことができる。サークルから行う投てき競技はマーカーを1つだけ置くことができる。そのマーカーはサークルの直後あるいはサークルに接して置く。マーカーは、現地で審判員が渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。
- (8) 競技用具については、棒高跳のポールを除き、競技場備付のものを使用する。
- (9) 助力について・・スタンドからの助言は、競技運営並びに他の競技者の妨げにならない範囲で認めるものとする。フィールド競技に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域の外にいる者によって録画された試技の映像を競技区域内に持ち込み、手に取り操作することが許される。しかし、手に取る際、勝手に当該競技エリアから離脱することは認められない。また、ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を、競技区域内で所持または使用することはできない。

2 その他

- (1) 参加校は定められた人数の補助員を出すこと。また、1名以上の顧問を役員として協力すること。
- (2) 参加校は当日の準備・片付けに協力すること。ゴミは各校で持ち帰ること。
- (3) 大会中のけがについては各自で対処すること。
- (4) 各校補助員は、8:30に集合場所(本部前グラウンド)に集まり、補助員係の指示を受けること。
- (5) 人の呼び出しや各校の個別の用件のための「放送施設」の使用は行わない。ただし、重要かつ緊急を要することについてはこの限りではない。
- (6) 競技に支障のあるような応援はしないこと。特にフィールド競技試技中の集団応援は、サイド、バックスタンドの2階席スタンドで行うこと。メインスタンドでの集団応援、およびメインスタンド最前列に立っての応援は禁止する。
- (7) 競技場の開場時間は7:30とする。